

地球

大正十五年
六月
第五卷

地球 第五卷 總目錄 大正十五年一月—六月

圖 版

- 第一版 隱岐島後の粗面岩及玄武岩の風景……………(第一號)
 第二版 山城宇治附近景觀……………(第二號)
 第三版 二上火山に於ける地球學團第三回講習會見學旅行……………(第二號)
 第四版 北海道洞爺鑛山産黑鑛の顯微鏡的構造……………(第三號)
 第五版 絹笠山頂より見たる島原半島……………(第三號)
 第六版 波斯の住宅及び聚落……………(第四號)
 第七版 丹波南桑田郡の住家……………(第四號)
 第八版 土佐下部三疊紀介化石……………(第五號)
 第九版 關東山地山中地溝帶白堊紀の介化石……………(第五號)
 第十版 温泉火山の坼裂線と熔岩丘……………(第五號)
 第十一版 北上縱谷中流部の分水線式地形圖……………(第六號)
 卷 頭 辭……………(第一號)
 科學としての地理學(上)……………小川 琢 治……………九
 南滿洲の地震に就て……………新帶國 太郎……………三

淡路の海岸

小牧實繁 四〇

隠岐島後東北海岸火山岩の風景

春本篤夫 五〇

地球の冷却(ハロルド、デエフレエース)

寺田貞次 五五

イギリス便り

寺田貞次 五五

地理教材としての地形圖

(十八)大阪府堺
(十九)和歌山県新宮
(二十)同前島根県出雲郡
(廿一)同前山形県山形市
(廿二)同前新潟県小野盆地

木下龜城 二〇

湯澤鑛山の纖維亞鉛鑛に就て

川井素吉 二〇

若狭灣と北但馬及京都盆地を成す斷層の關係に就きて

船越素一 三〇

宇治の景観

上治寅次郎 三九

カオリンの脫水現象並に固體カオリンがアルカリ土類(タンマン)の炭酸化合物及酸化合物に對する作用(及パー)

玉貫光一 三三

北樺太採集記(中)

小川琢治 三六

人類の土地に及ぼす影響

渡邊萬次郎 一八

洞爺鑛山黒鑛々床に就いて

小牧實繁 二四

庄内の砂丘

小川琢治 二七

人文地理學上より觀たる日本の村落

中目覺 三〇

北米合衆國の聚落について

金原信泰 三五

波斯の聚落及住宅

小牧實繁 三八

先史聚落地理

小牧實繁 三八

| | | |
|--------------------------|------------|----|
| 伊豆諸島の聚落…………… | 辻村太郎…………… | 三九 |
| 男鹿半島に於ける二つの港町の特徴…………… | 小田内通敏…………… | 三八 |
| 季節と共に興廢する能登沖舩倉島の漁村…………… | 石井逸太郎…………… | 三五 |
| 武藏野臺地に於ける水と聚落との關係…………… | 蘆田伊人…………… | 三二 |
| 奈良盆地の聚落…………… | 西田與四郎…………… | 三六 |
| 京都市内に殘存せる古代の聚落…………… | 藤田元春…………… | 三〇 |
| 作州津山藩の村落移轉策…………… | 黒正巖…………… | 三三 |
| 弓ヶ濱砂嘴の地學的瞥見…………… | 下間忠夫…………… | 三九 |
| 聚落の生態に就て…………… | 西龜正夫…………… | 三四 |
| アルプスの聚落…………… | 田中阿歌麿…………… | 三九 |
| 人文地理學上より見たる日本の都市(上)…………… | 小川琢治…………… | 四七 |
| 土佐に於ける下部三疊紀の介化石…………… | 松下進…………… | 四〇 |
| 關東山地中地溝帶白堊紀の介化石…………… | 矢部長克…………… | 四九 |
| 南紀湯崎温泉…………… | 長尾巧…………… | 四九 |
| 地球の化學成分について(タンマン)…………… | 石川成章…………… | 四九 |
| 北上縦谷中流部に就いて…………… | 渡邊萬次郎…………… | 四五 |
| 朝鮮平安北道南市地方の部落名…………… | 向山武男…………… | 三〇 |

日本化石產地表(二、和歌山縣)..... 中村新太郎 五七

上越線清水隧道測量の概況..... 菅谷泰昌 五三

談 叢

阿蘭陀木綿..... 鶴岡學人 三

講 話

朝鮮地名の考説(六)(七、完)..... 中村新太郎 一六

本邦に於ける造山作用、火山作用、鑛床生成の關係附 本邦鑛床の標式(上)(中)(下)加藤武夫..... 四六

摘 録

小澤、長門二疊石炭紀石灰岩の古生物、層序學的研究 栗久 六

矢部、清水、天草上部白堊紀鸚鵡貝新種..... 栗久 六

佐伯、丹波のシユラ紀三角貝新種..... 栗久 六

脇水、犬吠岬の漣痕..... 栗久 六

雜 報

南佛バスク農家(五卷表紙圖案説明)..... 二

京奉鐵道支線の延長..... 三

地球學團入團者氏名(大正十四年十一月十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百)..... 三

四卷六號副員名簿正誤..... 六

露西亞地質調査所近況..... 七

咸北明川の第三紀化石..... 七

土佐安藝の天然橋..... 六

讚岐屋島の雪の庭..... 六

本邦の中等海水面に就て..... 六

地中海に於ける海中活火山の現出..... 六

巴奈馬運河通過の貨物..... 六

海鼠の産地..... 六

漁場の盛衰..... 六

タンガニカ領金剛石..... 六

桑港灣七大架橋計劃..... 六

米國の自動車..... 六

世界羊毛産額..... 六

朝鮮黃海道鳳山炭坑の地質..... 六

| | |
|----------------------|-----|
| ノルウェー人のスピツベルゲン探検 | 一〇九 |
| 甘珠爾廟の歳市 | 一四三 |
| 山西省に於ける主要炭田 | 一五〇 |
| 本冬の初霜 | 一六〇 |
| 本冬の初雪 | 一七三 |
| 地球學團第三回講習會概報 | 一七四 |
| 地球學團第三回講習會二上火山見學旅行記事 | 一七四 |
| 文檢地理本試驗問題(四三三回) | 一七五 |
| 二上火山澗柘榴石採取業 | 一七六 |
| 最近の鐵道開通 | 一七六 |
| 大正十四年十月末船舶現在 | 一七七 |
| 支那海中海底壘地の發見 | 一七七 |
| ロカルノ會議 | 一七八 |
| メーメルの解決 | 一七八 |
| 南阿の白金坑 | 一七九 |
| 日本の人造絹糸と支那 | 一七九 |
| メキシコ低加州方面行 | 一八〇 |
| 三津圖葉地形説明の誤謬 | 一八〇 |
| モスコー問題 | 一八七 |
| 二號の正誤 | 一八七 |
| 南紀湯崎の新噴騰泉 | 一八七 |
| 大正十四年外國貿易 | 一八八 |
| リベリア事情 | 一八八 |
| 黒龍江及同支流間航路 | 一八九 |

| | |
|-------------------|-----|
| ペトロパワロフスク港 | 一八九 |
| 葡領ケーブヅエルデ群島 | 一九〇 |
| 我國に於ける質屋の數 | 一九〇 |
| 貝塚鐵道 | 一九一 |
| 地質時代に於ける植物界の變革 | 一九一 |
| 魚類化石の新發見と地質時代の推定 | 一九三 |
| 世界の人口 | 一九七 |
| 兵庫縣養父郡大杉さんざゝ踊 | 一九九 |
| 東洋拓殖株式會社の水利開墾の近況 | 二〇〇 |
| 石垣島の人口減少 | 二〇〇 |
| 地球學團第四回講習會概報 | 二〇六 |
| 地球學團岡山支部近況 | 二〇六 |
| 朝鮮、北海道、廣島縣に落下した隕石 | 二〇九 |
| 大正十四年本邦重要鑛山鑛產額 | 二〇九 |
| 鑛泉試錐取締の新縣令 | 二〇九 |
| 天然に出づる含水硫酸礬土の成因 | 二〇九 |
| 蘇丹マクワル堰の竣工 | 二〇〇 |
| 江蘇省無錫の工業 | 二〇〇 |
| 大英帝國航空路會社 | 二〇〇 |
| 世界最深の井戸 | 二〇〇 |
| 五卷五號四四〇頁地圖の地名 | 二〇三 |
| 黒海の海洋學的研究 | 二〇七 |
| 極東に於ける鑛產物資源 | 二〇七 |
| 白耳義領コンゴ | 二〇七 |

ブラジル果……………五七三

ベスツ火山の近狀……………五七四

桑港貿易類(一九二五年度)……………五七四

墨國石油產地(一九二五年度)……………五七四

大正十三年(一九二四年)世界主要鐵產額……………五七五

飛行機によるアラスカの地形調査……………五七五

太陽の黑點……………五七六

石油成因の一珍說……………五七六

四十四回文檢地理豫備試驗問題……………五七六

新刊紹介

輓近の地震學……………五八二

第四版英和和英地學字彙……………五八二

日本國誌資料叢書……………五八二

地形圖及地質圖解説……………五八二

大正十四年七月初旬京城附近に於ける漢江氾濫調査報文……………五八二

A Geographical Introduction to History……………五八〇

新編地質學鑿物の鑿識法と教授の實際……………一八〇

地球の起原と歴史……………一五五

地理教材研究第七輯……………一五五

都市計劃圖譜……………一五五

極東民族第一卷……………一五五

植物妖異考……………一五七

下伊那郡地質誌……………一五五

西洋又南洋……………一七〇

火田の現狀……………五七一

市街地の商圏……………五七一

質疑應答……………五七一

佛國の住民……………五七一

ラザオラリヤ板岩……………五七一

吉林省の米作……………五七一

深海の沈澱物(文檢)……………五七一

地向斜(文檢)……………五七一

變光星……………五七一

徐州……………五七一

クアラ ルンプール……………五七一

イースター島……………五七一

寒武利亞紀以前冰期……………五七一

火成岩と水成岩(文檢)……………五七一

岩石の肉眼的鑿識法(文檢)……………五七一

石英斑岩、放射虫板岩、岩鹽、閃綠岩、安山岩、珪岩(文檢)……………五七一

トリゴニヤ砂岩……………五七一

カーロラ……………五七一

埃及の獨立問題……………五七一

日本の在外領事館所在地……………五七一

赤峰と打箭爐……………五七一

編輯便り

五七一
二六四
二六六

大正十三年三月十八日第三種郵便物認可大正十四年十二月二十五日印刷納本(毎月一回一日發行)

地球

第五卷第一號

大正十五年一月一日發兌

主要目次

圖版 第一版 隱岐島後の粗面岩及老武岩の風景

卷頭辭

科學としての地球學(上)……………理學博士 小川 琢 治

南滿洲の地震……………P. P. 新帶國太郎

淡路の海岸……………文學士 小 牧 實 繁

隱岐島後東北海岸の山岩の風景……………春 本 篤 夫

地球の冷却……………文學士 寺 田 貞 次

イギリス便……………文學士 大 阪 市 街

地理教材……………

談……………

阿蘭陀木綿……………鶴 岡 學 人

講……………

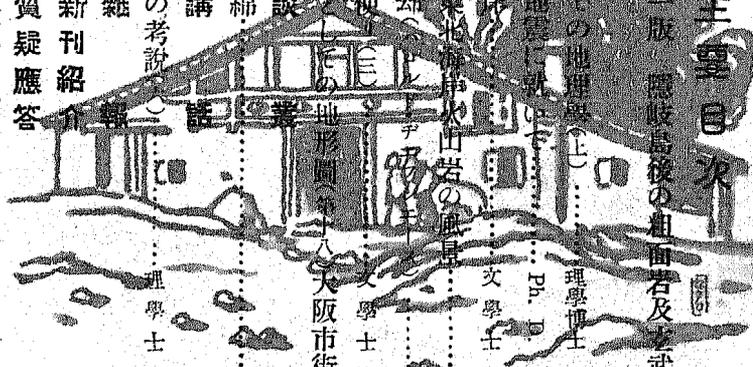
朝鮮地名の考説……………理學士 中 村 新 太 郎

雜……………

新刊紹介……………

質疑應答……………

地球第四卷總目錄



京 都 帝 國 大 學 內

地 球 學 團

第五卷第二號（二月號）豫告

圖版 第二版 湯澤鑛山の纖維亞鉛鑛

科學としての地理學(下) 理學博士 小川 琢 治

湯澤鑛山の纖維亞鉛鑛に就て 理學士 川木 下 龜 城

若狹灣と北但馬及京都盆地を成す斷層線の關係に就きて 船 越 素 一

日本化石産地表(二)和歌山縣 文

カオリンの脫水現象竝に固體カオリンがアルカリ土類の炭酸化合物及酸

化物に對する作用(タンマン及パペー) 文

イギリス便り(四) 文學士 寺 田 貞 次

北樺太採集記(中) 玉 貫 光 一

地理教材としての地形圖(第十九)知多半島の南部(師崎圖葉)

講 話

朝鮮地名の考説(七、完) 理學士 中村新太郎

卷頭の辭

我が『地球』は創刊後二年を経過し第三年第五卷を累ぬることになった。發刊に當り我々の懷抱した希望の一部分は此の二年間に實現し得て、昨年中には二回の講習會を催し團員の集合して意見を交換し見聞を廣汎にする機會を獲た。

本年も亦た上半季に於て三月末に人文地理を主題とする講習會を開き、四月に聚落研究號を發行する豫定である。尙ほ夏季には中國の或る地區を選定して八月中に長期の實地指導會を實行し、土地そのものを精確に觀察する方針を學ぶことを試みたい。

豫ねて計畫の單行本の發行も本年度には實現して團員の希望に副ふ積りである。

大正十五年一月

地 球 學 團

地球學團第四回講習會

開催豫告

我等の地球學團は人文地理學の諸問題を學團員と共に攻究し併せて今後吾等の向ふべき方針を獲んが爲めに洛東洛西一時に花笑ひ鳥囀るの候を下し左の人文地理學者宿を講師に聘して第四回講習會を開催する。學團員の揮つて此の攻究に馳參せられんことを望む。學團同人は計劃の初頭より多數の贊同を期待して居る。

開期 大正十五年三月二十七日(土曜)より四月一日(木曜)まで六日間。

會場

講師

| | |
|-------------|-------|
| 京都帝國大學教授 | 小川 琢治 |
| 京都帝國大學教授 | 石橋 五郎 |
| 神戶高等商業學校教授 | 田中阿歌麿 |
| 水産講習所講師 | 内田 寛一 |
| 京都帝國大學講師 | 田中 秀作 |
| 東京高等師範學校教授 | 藤田 元春 |
| 浦和高等學校教授 | 小野 鐵工 |
| 彦根高等商業學校教授 | |
| 第三高等學校教授 | |
| 大阪高等學校教授 | |
| 和歌山高等商業學校教授 | |
| 京都帝國大學講師 | |

講義題目及時間割は二月號に發表す。

學團員研究發表批判會 三月三十日及三十一日兩

日午後。研究發表希望の學團員は要領を十五行二十二字詰一頁以内に記して三月二十日までに地球學團に宛て前以て御送附のこと。

見學 四月一日比叡山登臨、八瀬村觀察。

講習會員數 百五十名。

申込期限 三月十五日迄に地球學團に申込むこと。

會費其の他 會費金五圓、御出席の上會期の初めに係員へ御納めのこと。猶見學の際の乗車賃(約一圓)は御自辨のこと。

宿泊所 宿泊希望の向は前以て御通知あらば宿所を定め置く、一泊中食附二圓内外。京都市上

京區田中門前町四三(百萬遍西門横)村上靜宜館へ行かれると御便宜を計る。

講習會員資格 地球學團員に限る。此の際地球學團へ入團希望の方は「地球購讀費半々年分以

上を地球發行所なる博多成象堂(大阪市南區大寶寺町西ノ丁二)振替大阪七參參番)へ

前納した上、地球學團へ宛て入團及び講習會

參加を申込まれたい。

大正十五年一月

地球學團

地球學團

地球

第五卷 第一號

地球 第五卷 第一號

目次

圖版 第一版 隱岐島後の粗面岩及玄武岩の風景

卷頭之辭

科學としての地理學(上)……………理學博士 小川 琢治 (一)

南滿洲の地震に就て……………Ph.D. 新帶國太郎 (三)

淡路の海岸……………文學士 小牧實繁 (四)

隱岐島後東北海岸火山岩の風景……………春本篤夫 (五)

地球の冷却(ハロルド、デエフレエース)……………文學士 寺田貞次 (六)

イギリス便り(三)……………文學士 寺田貞次 (六)

地理教材としての地形圖(第十八)大阪市街……………(六)

談叢

阿蘭陀木綿……………鶴岡學人 (七)

講話

朝鮮地名の考説(六)..... 理學士 中村新太郎 (夫)

雜報

- 土佐安藝の天然橋
- 本邦の中等海水面に就て
- 巴奈馬運河通過の貨物
- 漁場の盛衰
- 桑港灣七大架橋計劃
- 世界羊毛産額
- 讃岐屋島の雪の庭
- 地中海に於ける海中活火山の現出
- 海鼠の産地
- タンガニカ領金剛石
- 米國の自動車
- 南佛バスリ農家
- 露西亞地質調査所近況
- 京奉鐵道支線の延長
- 編輯だより
- 咸北明川の第三紀化石
- 朝鮮黃海道鳳山郡鳳山炭坑の地質

新刊紹介

- 輓近の地震學
- 日本國誌資料叢書(武藏、攝津、河内、和泉)
- 大正十四年七月中旬京城附近に於ける漢江氾濫調査報文
- 地學辭彙(第四版)
- デーク及びブラウン地形圖及地質圖解説

質疑應答

- 佛國の住民
- 吉林省の米作
- ラヂオラリア板岩の成因と其世界的分布

英和地學字彙

第四版發行

四六列裝訂
クロース薄表紙
金文字入全一冊
第四版三〇頁
正價金參圓五拾錢
透内地拾貳錢
料奢繪棹太參拾錢
滿鮮地方四十五錢

地學字彙は發行以來年を閱すること茲に十年版を重ねること三版に達し此間同僚相集まりて更に之が増補改訂を企て原稿の如き稍其緒に就きしものありしが一昨年の大震火災の爲に其稿本は元より舊版も亦悉く烏有に歸し全く江湖の需用に應ずる能はざるに至り今版を新にするに當り本文には比較的簡易に撰定し得べき術語數百を増加し巻尾には普通使用する地學上の分類表を添附し以て第四版として之を世に公にするに至れり之を舊版に比すれば其面目を新にせしこと尠からず一木を座右に供へられんことを敢て之を江湖に薦む。

發行所 東京地學協會

東京市神田區表神保町

東 京 堂 (振替東京二七〇番)

東京市京橋區銀座三ノ一

東 海 堂 (振替東京八六〇番)

東京市京橋區元數寄屋町

北 隆 館 (振替東京七五〇番)

賣 捌 所

地球前號(第四卷第六號)要目

圖版 第八版 小坂鑛山鑛床の母岩

小坂鑛山地質概報……………理學博士 渡邊萬次郎

瀧泉岳前山の山崩説を駁す……………理學士 佐藤傳藏

日本化石産地表(一)三重縣……………

地球の化學成分に就いて(ワシントン)……………

カオリンの灼熱現象に就いて(リンネ)……………

イギリス便り(二)……………文學士 寺田貞次

地理教材としての地形圖(第十七)三津(瀬戸内の一例)……………

談 叢

吾妻山破裂の追憶……………工學博士 比企 忠

講 話

朝鮮地名の考説(五)……………理學士 中村新太郎

地球第一卷第一號より第四卷第六號までの御注文は京都

市下京區西洞院七條南内外出版株式會社に御申込下さい

地球學團規約

- 第一條 本學團を地球學團といふ。
- 第二條 本學團は地球に關する學術的研究を進め兼て同好の士の組織をはかるを目的とする。
- 第三條 事務所を京都市白川追分町京都帝國大學地質學教室内に置く、又會員が多い地方には支部を置く事がある。
- 第四條 本學團の事業は次の如くである。
 雜誌並に圖書の刊行
 講演並に講習會の開催
 實地見學の指導
- 第五條 本學團員は地球購讀費として一年分六圓又は半年分三圓を發行所へ前納すること。
- 第六條 本學團員になりたくない人、住所職業氏名を申込み、同時に地球購讀費半年分以上を、發行所へ送金する事。
- 第七條 學團を脱退しやうとする者は、其の旨を學團に通知すること。

註文規定

- ① 願員にあらざる購讀者の御註文及び廣告に關する件は博多成象堂へ御申込下され度候
- ② 本誌の御註文代金郵税共はすべて前金にて御送り下され度候
- ③ 郵券代用にての御註文は一割増に願上候
- ④ 振替貯金にての御註文は(振替穴阪七參參參番、東京五貳六〇七番)博多成象堂宛に願上候
- ⑤ 前金切れの場合は帯封に(前金切)の印章押捺致すべきに付直に御抽込下され度候
- ⑥ 特別に請求書及領收書等を要する場合は郵券參錢御送付下され度候

價定

| | | |
|---------|--------|-------|
| 一冊 | 定價金五十錢 | 郵税金貳錢 |
| 六冊(前金) | 定價金參圓 | 郵税不申受 |
| 十二冊(前金) | 定價金六圓 | 郵税不申受 |

廣告料 一頁 金五拾圓

大正十四年十二月廿五日印刷納本
 大正十五年一月一日發行

第五卷 第一號

不許複製
 禁轉載

編輯者 京都帝國大學内 地球學團

右代表者 藤田元春

發行者 博多久吉

印刷者 堀越幸

印刷所 日本印刷製木株式會社

發行所

大阪市南區大寶寺町西之丁貳拾貳番
 電話大阪特南壹壹七七番

發賣所

博多成象堂
 (東京五貳六〇七番 振替穴阪七參參參番)

所 賣 處
 (東京) 東京堂 東海堂 大東館
 (大阪) 北隆館 上田屋
 (神戶) 盛文館 參文社
 (京都) 寶文館 瀨日進堂
 (名古屋) 共盛社 川瀨書店
 (名古屋) マガジン

CHIKYŪ - THE GLOBE



Vol. V. No. 1.

January, 1926.

Plate I.—Scenery of the Trachyte and the Basalt in Dōgo Island, Oki Islands.

| | |
|---|----|
| Geography as a Science (1)..... | |
| By T. Ogawa, <i>R.H.</i> | 1 |
| <i>Earthquakes in South Manchuria</i> | |
| By K. Niinomy, <i>Ph. D.</i> | 12 |
| Sea-Coast of Awaji Island | |
| By S. Komaki, <i>B. S.</i> | 44 |
| Scenery of the Volcanic Rocks in Dōgo Island, Oki Islands | |
| By A. Harumoto | 50 |
| The Cooling of the Earth (Jeffreys) | 55 |
| Geographical Correspondence from | |
| England. (3)..... | |
| By T. Terada, <i>B. S.</i> | 64 |
| Topographical Maps recommended for Schools (18) | 69 |
| Cotton-Seed from Holland By. M. Fujita, <i>B. S.</i> | 72 |
| Place Names of Korea (6) | |
| By S. Nakamura, <i>R. S.</i> | 76 |
| Geographical Notes — New Books — Inquiries. | |

Chikyū Gakudan
Kyōto Imperial University.